

小学校英語教育における教員の資質能力向上研修プログラムの開発に関する研究

Capacity-Building-Training to Improve the Quality of English Teaching in Elementary Schools

服部 孝彦¹, ティモシー ライト², グレゴリー ジョンソン³, 高野 成彦⁴, ローレンス カーン⁵
Takahiko Hattori¹, Timothy Wright², Gregory Johnson³, Narihiko Takano⁴, and Lawrence Karn⁵

¹英語教育研究所, ²社会情報学部, ³比較文化学部, ⁴教職総合支援センター, ⁵英語教育研究所

キーワード: 小学校英語教育, 教員研修, リフレクティブな指導

Key words: Elementary school English education, Teacher' training seminar, Reflective teaching

1. 研究目的

本研究の目的は、小学校教員が「教科としての英語」を教えるために必要な指導力を向上させるための研修プログラムの開発をすることである。多くの小学校教員は、平成30年4月から次期学習指導要領の先行実施として行われている「教科としての英語」を教えることへの不安を持っている。そこで「教科としての英語」を教えるために小学校教員が直面する問題を解決するための研修プログラムの開発を行った。教員研修プログラムの開発に際しては、教員に対する語学研修を重要な任務とする神奈川県立の高等教育機関及び東京都教職員研修センターの協力を得ることができたので、小学校教員のニーズに合った教員研修プログラムの開発を行った。

2. 研究実施内容

2.1. 研究の学術的背景

教員の質の向上の枠組みは、教員としての最小限度の質的能力を育成する大学での養成段階、その養成段階修了者の中からよりすぐれた資質能力を持つ者を選考する採用段階、専門的資質能力を向上させる現職教育段階の3段階に分けられる。本研究ではこの枠組みに基づき、現職教育段階での「教科としての英語」を担う小学校教員の資質能力を向上させるための方策を探究した。

英語を教える教員の質の向上には他の教科指導と同様に、以下の4つの視点が必要である。それらは(1) 日常の英語指導の実践、(2) 校内研修の実施、(3) 任命権者である教育委員会等が提供する

研修の実施、(4) 教員により自主的に設立されている教科研究会等による研修の実施である。本研究では、(1) の日常の英語指導の実践と(2) の校内研修の実施に焦点を当て、以下の6点を明らかにした。

1. 「教科としての英語」の授業で行う個々の活動の目的とは何か、どのような効果があるのか、それぞれの活動のつながりは明確になっているか。
2. 「教科としての英語」を教えるには、どのような共通の課題があるか、また地域、学校規模、教職経験年数別の教員の持つ共通課題は何か。
3. 児童の学習態度や英語力の現状把握ができていますか。
4. 授業改善の目標が「リサーチ・クエスチョン」および「改善の目安(数値目標)」という形で明らかになっているか。
5. 目標を達成するために、それぞれの指導事項や言語活動にどのような目的や効果があるのかが明らかになっているか。
6. 児童の変化・向上を検証し、改善目標が達成されたかどうか明らかになっているか。

2.2. 研究内容

本研究では、小学校教員のための継続的に実施できる「授業における課題発見→授業改善→児童の変化の検証」による系統的な「教科としての英語」研修プログラムを開発することで、日常の英語指導の実践で教員が授業改善に取り組むことができるようにするための手順を示し、授業の具体的な課題と、教員自身で実践可能な課題の解決方

法を明らかにした。

神奈川県公立小学校教員への調査を実施し、(1) 自分の授業スタイルの振り返り、(2) 授業における課題の発見、(3) 児童の現状把握、(4) 授業改善目標の設定、(5) 目標達成のための手だての決定、(6) 児童の変化の検証と教員自身の振り返りに関する実践研究を行った。

(1) 自分の授業スタイルの振り返りでは、自分の授業を客観的に分析することを通して「教科としての英語」の授業で行う個々の活動の目的と効果、活動のつながりを教員に考えてもらった。このことにより英語を教える小学校教員としての思いと実際の指導方法の整合性を明らかにした。

(2) 授業における課題の発見では、「教科としての英語」について、どのような課題があるか、教員の思いと授業の実情にどのような食い違いがあるかなどをなるべく多く列挙してもらった。そしてその中から共通項を見つけ出した。このことにより「教科としての英語」を教える際の多くの教員が直面する課題を明らかにした。また、地域及び学校規模別の教員調査だけではなく、経験年数別に、様々な年齢の教員の課題発見の調査も行った。このことにより、地域、学校規模、教職経験年数別に教員の持つ課題を明らかにした。このような調査結果がなければ、英語を母語とする外国人指導助手 (ALT) や地域の英語が堪能な人材を、どのように小学校に配置し、「教科としての英語」の授業を行う担任教員のサポートをしてもらえばよいかを把握できない。

(3) 児童の現状把握では、(2) の調査で確定した解決すべき重要度の高い課題に関連する児童の学習態度や英語力、技能などを、質的・数量的に調査した。質的データとしては、児童の英語学習に関するコメント、教員による学習観察記録、数量的データとしては、テストの得点、発話語数などである。この調査により児童の学習態度や英語力を明らかにすることができた。

(4) 授業改善目標の設定を行うことにより、授業改善の目標とゴールを明確にした。具体的な方法としては、「リサーチ・クエスション」および「改善の目安 (数値目標)」という形で目標とゴールを明らかにした。

(5) 目標が明らかになったので、その目標達成のための手だての決定を行った。目標を達成するために、授業でどのような指導を行うべきかを教員自身が考え決定する。これにより、それぞれの指

導事項や言語活動にどのような目的や効果があるのかを明らかにすることができた。

(6) 児童の変化の検証と教員自身の振り返りを行った。(3) の児童の現状把握で用いたものと同じ手法で、児童の変化・向上を検証し、改善目標が達成されたかどうかを調べた。また同時に、この一連の取組を通して「児童の見方」「授業のデザイン」「教材の扱い方」などについて、教員自身がどのように変化したかを省察した。このことにより児童及び教員の変化を明らかにした。

3. まとめと今後の課題

研究代表者は、教員対象の研修会の講師として、小学校現職教員と接する機会が多い。小学校教員からは、次期学習指導要領で導入される「教科としての英語」を教えることへの不安感と負担感が多く聞かれる。教科であるので「聞くこと」「話すこと」を中心とした英語に慣れ親しむ「外国語活動」とは違い、「読むこと」「書くこと」も含めた英語の授業を行う必要があるからである。この教員の持つ不安感と負担感を少しでも払拭することに役立つ研修プログラムを開発することができた。

本研究で開発された研修プログラムは、まず研究代表者が講師を務める教員研修で実施する。そして大学の有識者、教育委員会の英語担当指導主事への意見聴取を通じた検証によりプログラムの改善を行う。その後は英語教育学会での研究発表、全国各地で研究代表者が講師を務める教員研修会で本研修プログラムの紹介し普及をさせる。

小学校で英語教育を始める理論的根拠としては、第二言語習得における臨界期仮説をあげることができる。臨界期とは、ある行動様式を身に着けるためには最も適した時期のことである。言語に関しては、高度な言語能力が比較的容易に習得できる期間といえる。臨界期仮説によると、この期間を過ぎてしまうと言語を不完全にしか習得できないとしている。今後は臨界期仮説について、言語学者の間で何が、どこまでわかっているのかを明らかにする必要がある。そして年齢と第二言語習得についての理論を、英語を教える小学校教員に理解してもらうための研修プログラムの開発も必要となる。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1] 服部 孝彦、「新学習指導要領にみる小学校に

における英語教育の目的と指導理念に関する一考察』、『英語教育研究所紀要』, 第3号, 大妻女子大学英語教育研究所, 2020, pp.25-38.

②学会発表

[1] 服部 孝彦, 「小学校英語教育における授業改善研修プログラムの開発」, 日本言語文化学会第26回研究大会, 2019年7月6日, 大妻女子大学

[2] Takahiko Hattori, “A Study of the Effects of Speed Reading on Japanese Students”, Hawaii International Conference on Education, 2020 International Conference, 2020年1月4日, Hilton Hawaiian Village Tapa Convention Center

③招待講演

[1] Takahiko Hattori, “Second Language Acquisition and Learning”, Eastern Michigan University Special Lecture, 2019年5月11日, Novi HS Auditorium

[2] 服部 孝彦, 「小学校英語教育: 英語力・指導力の目標及び内容」, 東京都英語教育中核教員養成講座, 2019年7月29-30日, 東京都教職員研修センター

[3] Takahiko Hattori, “Language Attrition”, JOES Singapore Special Lecture, 2019年10月26日, The Japanese School of Singapore Clementi Campus